

1 学校課題

豊かな言語力を活かして、生き生きと学びあう児童の育成
～言語力の育成と、言語力を活かした学習の充実～

2 研究内容

(1) 研究の方針

本校が取り組んできた「言語力の育成とその活用」に関する研究も、今年度で3年目である。2ヶ年の成果・課題を踏まえ、研究の内容は少しずつ発展してきた。特に今年度は、これまでに児童が培った言語力を各教科・領域での学習活動に活かす工夫を中心に据え取り組んできた。「一人一研究授業公開」を実践してきた本校において、「学習スキルの習得」を研究の中心としてきた昨年度は「国語科の直接的指導研究」と「算数科の思考を表現する授業研究」が多かったのに対し、今年度の教科・領域は多岐にわたり、様々な方法で課題にアプローチする取組となった。

(2) 研究の具体策

①国語科で

「書くこと・聴くこと・話すこと」に関する単元で、学習スキルを確実に身につけるための指導の工夫・充実を図る。身につけた力を教育活動全般における言語活動の基本ツールとして使いこなせるようにする。

②各教科およびその他の領域で

教科・領域の目標を達成するために言語活動を有効に活用する方法を研究する。

③「ことのはタイム」

各学年の学習内容に準じたワークブックを準備し、計画的・網羅的に文字力や語彙力・文法力を鍛え、言語力の育成・向上を図る。

④「作文タイム」

全校一斉に書く時間を確保する。ただし昨年度の反省を踏まえ、実施時間帯を変更する。「行事後実施の全校統一テーマ」を廃し、各学年の国語科における作文指導とリンクした内容・方法で行う。よってテーマは「手紙文」や「リーフレット文」「提案文」というようになる。作文ノートに書かせることで書き直しや見返しを可能にし、「書くスキル」の向上とともに、自己評価の機会ともする。「作文タイム」で書いた作品は、代表者が全校放送で発表することとし、児童の書く意欲や向上心、「聴くスキル」の向上を図る。ノートは家庭学習での日記や授業時間にも活用する。

⑤「スピーチタイム」

児童が話したり聴いたりする訓練を継続的に行う過程で「話すスキル」「聴くスキル」を高める方法を工夫する。授業のなかでも発表説明・話し合いを効果的に導入し、豊かな言語活動が教科・領域等のめあて達成に有効に働くよう意識していく。



3 研究経過

○…教師の実践 ◎…児童の実践

月	内 容	月	内 容
4	○「作文タイム」指導計画作成 ○「ことのはタイム」指導計画作成 ○「スピーチタイム」指導計画作成	10	○10/27 S&Uコラボ事業Ⅱ 課題研修⑩ 研究授業 6年 (社会)
5	○ 4/16 課題研修① 今年度の内容	11	○11/ 7 校内研究授業 2年 (国語) ◎11/ 4~11 作文タイム③ ◎11/18~21 作文校内放送
6	○ 5/28 課題研修② 指導案検討会 1 - ① ○ 6/ 9 課題研修③ 指導案検討会 1 - ② ◎ 6/23~27 作文タイム①(2~6年) ○ 6/24 校内研究授業 5年 (算数) ○ 7/ 1 校内研究授業 1年 (国語)	12	○11/10 課題研修⑪ 指導案検討会 3 - ① ○11/25 課題研修⑫ 指導案検討会 3 - ② ○11/28 課題研修⑬ 指導案検討会 3 - ③ ○12/15 S&Uコラボ授業Ⅲ 課題研修⑭ 研究授業 3年 (社会)
7	◎ 7/ 7~11 作文校内放送 ○ 7/ 7 S&Uコラボ事業Ⅰ 課題研修⑤ 研究授業 1年 (国語) ○ 7/17 新採正式訪問 3年 (国語) ◎ 7/14~18 作文タイム②	1	◎12/15~19 作文タイム④ ◎ 1/19~23 作文校内放送 ○ 1/13・14 校内研究授業 3年 (理科) ○ 1/19 校内研究授業 4年 (理科) ○ 1/29 校内研究授業 特別支援学級(生単) ○研究のまとめ ○研究集録原稿作成
8	○ 8/ 5 課題研修⑥ 情報交換会Ⅰ 課題研修⑦ 指導案検討会 2 - ①	2	○ 1/28 課題研修⑮ 情報交換会②
9	○ 9/ 8 課題研修⑧ 指導案検討会 2 - ② ○ 9/24 課題研修⑨ 指導案検討会 2 - ③ ○10/17 校内研究授業 5年 (道徳)	3	◎ 2/23~27 作文タイム⑤ ◎ 3/ 9~13 作文校内放送

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- 国語科の授業で、学習スキルを身につけるための指導を工夫し研究改善を重ねた結果、児童の言語力が向上し、各教科および領域等における言語活動の基本ツールとして有効に働く場面が増えてきた。
- 教師は、言語力に関する児童の実態を把握し、より効果的と思われる言語活動を各教科領域にいかに関設定するかを工夫できた。国語科以外の様々な教科で試みがなされ、研究が深められた。
- 「ことのはタイム」では計画的・網羅的に文字力や語彙力・文法力を鍛えたことにより、語彙が増え、作文やスピーチに活かせる児童が出てきた。
- 国語科授業に合わせた「作文タイム」の実施により、児童・担任両者の負担感が軽減された。各学年でめざす基本的な文章構成力がついてきた。児童はまとまった量の文章を書くことに慣れてきた。友達の校内放送に対し関心をもって聴く態度が芽生えるとともに、意欲の喚起にもつながった。
- 「スピーチタイム」の実施により、多くの児童が人前で話すことに慣れ、自信がついた。適切な声の大きさを意識するようになった。短文をつなげ充実した内容を話したり、質問に臨機応変に応じて、よりコミュニケーションに近い話し方ができたりした児童も見られた。
- 全職員が研究に主体的に携わり、忌憚のない意見を出し合って研究を進めた結果、研究内容が深まると同時に職員間の同僚性も高まった。

(2) 課題

- 「書くスキル」に関しては、語彙力・文章表現力ともに個人差の広がりが出ている。今年度のような各学年の授業内容に合わせたテーマ設定は進捗の関係で実施時間の変更もあり、計画通りの実施に困難が生じた。「書くスキル」は多作が重要と思われ、年間5回は不足である。今後検討の必要がある。
- 「言語力」は日常の継続的指導が重要である。そこでしっかり力をつけてこそ、各教科・領域に有効に活用できることを常に意識して指導にあたる必要がある。